

中部大学民族資料博物館特別講座

「古典絵画」

2025年度受講生 作品展記録集

— 古典技法の現代作品への応用



落信子
印

特別講座「古典絵画」2025年度受講生作品展 ー 古典技法の現代作品への応用

会期：2026年3月19日(木)～5月29日(金)

会場：中部大学民族資料博物館

主催：中部大学民族資料博物館

開催にあたって

特別講座（古典絵画）は、当館が開館以来進めてきました、一般対象の生涯学習プログラムの試みで、日本画の実技制作を学ぶ連続講座です。体験を通じて素材や技法の仕組みを知り、さらには描き手の観点も加え、伝統文化をより深く理解する入り口を提案しようという大学博物館発信の特色を活かした企画です。

日本画の技法や材料は大陸から伝来したもので、様々な国の古代遺跡の壁画の彩色表現に共通して、もとは土や鉱物、動植物染料などの天然材が絵具に用いられてきました。日本独自の絵具の精製方法など画材の改良発展をかさね、千年以上の時を越えて日本特有の絵画表現が発達し継承されてきました。しかし残念なことに、近代以降の学校教育の科目に日本画は含まれることはなく、若者が日本画を体験することは極めて稀であり、現代生活のなかでは日本画に親しむ機会はけっして多いとはいえなくなりました。

けれども市井の絵画教室では、日本画を学びたいという人は今なお絶えることはないようです。むしろ年齢を重ねるにしたがい、自身のルーツに対する関心を深めることにつながる学びを求めていくのでしょうか。日本画は、写実的な表現を手段とすることもあります。決して目的とはしません。形に内面的な心象イメージを込める、象徴的な表現を理想とすることから、日本の自然風土の原点を探る旅愁に人びとをかりたてるのかもしれない。当館では、芸事が盛んなこの地域の特質も考慮しながら実技制作にこだわりを持ち、本講座の開講を継続してきました。また、受講対象は社会人ですが、講座内の作業補助には関心を持つ学生が交代で参加するようにしており、幅広い年齢層が体験学習を通じて交流する機会にもなっています。

このような授業環境が形成できてきた背景には、ひとえに講師と受講生の皆様の学びに対する真摯な姿勢があるからこそ思っております。

また、本講座の開催にあたっては学内の関係部署の協力を経て実現がかなっております。御協力をいただきました全ての皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

2026年3月吉日

中部大学民族資料博物館

ごあいさつ

本冊子では、2025 年度に開催された中部大学民族資料博物館特別講座「古典絵画」の制作工程や完成作品をご紹介します。今回のテーマは「古典技法の現代作品への応用」です。講座では、日本画の和紙や絵具の性質を活かした現代作家による制作技法を用いて講師指導の下で作品を制作し、一人あたり前期 1 点、後期 1 点の計 2 点の作品を完成させました。

前期は画面の表面に加え裏面に彩色する手法を用い、複数の色層を重ねて作り上げた深い色みが織りなす色面を活かした、奥行きのある画面世界の表現効果を学びました。次いで後期には、焼き付けた杉板を使い、和紙に木目を擦りあわせてかたどるように写し取りながら、木目のもつ連続した曲線のリズムある形を画面にとり入れる手法を習得しました。

このように、抽象的な形態を筆によるモチーフの描写と効果的に組み合わせることによって奥深い構成空間を作るといふ、造形性を意識した高度な制作工程を自らのものとするのが可能となり、アンケートの結果からも受講生の方々の満足度は非常に高かったようです。各作品をご覧頂くと、木漏れ日や水面、緑の濃淡など、テーマを構成する各場面に

それらの技法を巧みに採り入れている様子をうかがい知ることができます。

また教室の準備には、通年にわたり中国からの留学生(大学院生) 1 名が記録撮影や画材の準備にあたってくれました。その真面目で丁寧に取り組む姿勢をみて、講師が日本画特有の画材における金銀箔の取り扱いや、墨や絵具を溶く作業の一部を体験させる場面も時折見られ、受講生と材料を通じて交流を深めた点も印象深いひとときとなりました。日本文化に実際に自身の手で触れることができた、貴重な機会になったのではないかと思います。

なお、本図録に掲載された「月下美人・浄(じょう)」は、講師である下川辰彦先生から 2021 年度に民族資料博物館へ寄贈いただいた 2 点一對のうちの 1 点です。月下美人は夏から秋にかけての新月や満月の頃、年に一度だけ真っ白な花を夜に咲かせることで知られますが、可憐な色使いや夜の闇に花卉が透けて通る表現の美しさに思わず引き込まれます。

最後になりましたが、下川辰彦先生から頂きました懇切丁寧なご指導、並びに本講座を支えて下さった方々に深く感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2026 年 3 月吉日

中野 智章 (中部大学民族資料博物館長・国際関係学部長)

指導講師あいさつ

2025年度の本講座の課題作品の制作は、これまでの応用編と位置づけ、創作作品に伝統的な技法を応用する手法を中心に学ぶ機会としました。日本画で用いる和紙や絹絵などの基底材や絵具は、その特質から様々なアプローチができる素材です。伝統的な技法を現代の材で置き換えながら工夫できる点もたくさんあります。私も作家活動のなかで試行錯誤を繰り返しながら見出してきました。今回はこれまで自身の作品制作で試みた表現法の一部を、前期と後期に1点ずつ作品を制作する工程のなかで紹介することにしました。日本画に対する古い固定観念をやわらげ、さまざまな表現方法を自由に描き手が編み出していったよいいのだということを伝えたいからです。

例えば、罨砂の扱い方の応用として、本紙の表面だけでなく裏面からも彩色を行い、作品を多視点でとらえて配色を考えたり、本紙に木目をかたどりその模様を活かす方法など、画面全体で色面を作り、モチーフの形態表現に重層的な彩色効果を表す工夫

など、形と色の両面から画面に深みをもたせる表現手法についてとりあげました。

これらの工程は、単にマニュアルに添って行えばよいものではありません。また、単純に経験年数に応じて確実に成長できるか、というものともいえません。特に色彩を扱う描き手の感性は、自身で感受する意識を保ち続けなければ、画面に現れる表現は即座に鈍くなってしまいます。今年の講座では、特にこうした表現上では、これまでより一段階進んだ、造形感覚への意識づけについて自覚することの大切さを声に出してきたつもりです。日々の私の言葉を理解し受け取ってくれたかどうか、それぞれの作品が物語っているといえますが、ここから先は、個々の作品世界に関わるため、私が代わりに完成させることはできません。

絵画とは、機械ではなく人間の感性による表現で、その心の持ちようによっていかようにも自由に変化していくものであることを知っていただければという思いでいます。

2026年3月吉日

下川 辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）

中部大学民族資料博物館企画

「特別講座（古典絵画）2025 年度受講生作品展 ― 古典技法の現代作品への応用」記録集

目次

開催にあたって

ごあいさつ 中野 智章 民族資料博物館長

指導講師あいさつ 下川 辰彦 特別講座指導講師

(特別講座担当所感)

「2025 年度の特別講座の教室風景より

～古典への学びと、創作へ向けた現代における挑戦と」

原田 千夏子 民族資料博物館担当

1

作品一覧

3

受講生作品 (五十音順)

5

賛助出品作品

39

《月下美人・浄^{じょう}》

下川 辰彦 (日本美術院特待)

2025 年度特別講座（古典絵画）制作工程

43

創作作品制作工程（前期）～地塗りを活かした表現ほか

44

絹絵制作（前期）～《(模写) 中宮物語絵巻》(制作工程アレンジ)

51

創作作品制作工程（後期）～木目を活かした表現ほか

53

受講生 アンケート集計報告

60

(特別講座担当所感)

2025年度の特別講座の教室風景より～古典への学びと、創作へ向けた現代における挑戦と

原田 千夏子

「日本画」というと、一般的には花鳥風月が描かれるイメージがもたれがちだが、じつは技法や表現について進化と革新を目指した作品が今もなお制作され続けている、れっきとした現代美術のジャンルの一つとして存在している。日本画特有の和紙や墨、接着剤、絵具、箔などの天然材による画材は希少なうえ高価で、その取扱いの基礎を会得するだけでも経験を重ねる必要があり容易ではない。現代作家は伝統的な技法の研究を続けながら、さらにそれを応用して自身の作品を新たに創造しようと終生にわたり実験にむけた努力を続けているのである。本講座の指導講師の下川辰彦先生もそのような研究姿勢をもつ作家の一人である。

一方、日本画を趣味で嗜む人には、大人になってから歴史文化への興味や、日本の原風景への郷愁の念などから教室の門戸をたたく人も多いときく。若い頃と違い、簡単には手に入らないもの、手間をかけて生み出すものにこそ価値を見出そうとする年齢に応じて惹かれる意識に合致するのかもしれない。本講座では、指導講師の発案により、一般の絵画教室では紹介されることがあまりない、絹絵や板絵、箔の扱いや特殊な絵具の作り方など、伝統的な画材を用いた技法について毎年課題テーマを設定して貴重な技法の数々をご指導いただいている。2025年度は、にじみ止めのための礬砂を本紙の表裏に効果的に用いた彩色手

法や木目を活かした画面作りなどを工程に加える内容で、前期と後期に各1点ずつ作品を制作するなかで専門的な作家の観点からの特別な技法を惜しみなく披露いただくものだった。

担当者の目線からこれまでを振り返ると、開講年数を重ね、日本画の多様な制作を直接目にしていくたび、その奥深さに驚き、いかに現代の日本ではその真の魅力を知らずに多くが過ぎてしまっているかと痛感する。絵画は、単に線を引き、そこに色を塗りつけるだけではない。また筆法のテクニックだけでなく、個々の特殊な画材の性質をよく認識し、丁寧な所作に気をつけながら下地の準備をし、基底材の表面と裏面から様々な工程を施すことで、画面全体の配色関係をコントロールするという緻密な工程手順をふむ。画材に触れる指先や掌での感触、匂いなど五感をフル活動させ、身体全体を使って、ときに繊細に、ときに大胆に調合や調整を行っていく、人間の経験から獲得した知と感性と体力を総合的に融合させて初めて実現する、非常に高度な創造行為といえる。

一回三時間を要する本講座では、終了後に精神集中したあとの指導講師の体力消耗された姿をしばしば目にしたことがある。受講生一人ひとりの進行に応じて、実演による手本を交えた指導に心を配り、時間内に休憩をとることさえ忘れて向き合っていたというゆえであろう。また受講生の多くが、講師の説明

を漏らすまいとして必死にメモをとる姿が教室では日常風景となっていたことも添えておきたい。ありがたいことに受講生の定員を毎年満たしてきたのは、本講座「古典絵画」の企画が、地域の社会人の学びの場としてその学習意欲に応える、質と内容を指導講師が維持され、またその熱意を受講生の皆様が受け取りながら学ぶ喜びを発見されてきた結果だと思っている。

下川先生のこのような制作指導の原点には、やはり冒頭で触れたように、「古典」と「現代」という二つの車輪を備えて研究した、日本美術院の先人たちの生様がその御手本となっているという。とりわけ先生の場合は、薫陶を受けた片岡球子(1905-2008)先生が、表現の可能性を追究するため、幅広く洋の東西の美術作品の勉強を続けて独自の作品世界の創造に挑戦し続けた画業人生を送られたことに敬意をもってこられたときく。停滞や現状維持に留まるよりも失敗してもいい、今を生きる自身の感性を通じて過去の物事や事象をみつめ直し、情熱をもって解釈を加えていくところに、小さくとも尊い一歩が始まる。自己の存在意義を探求する勇気を抱く心の持ち主に対して敏感に察知していくよう常々胸に思っていたらっしゃるとのことである。

ネット社会の普及や人口減少によって、生活、学校、職場、それぞれの従来のコミュニティが次々と解体されていくなか、大学における「生涯学習」の役割について深く考えさせられるこの頃である。

(はらだ ちかこ・民族資料博物館担当)

凡例

- ・ 本図録は、2026年3月19日～5月29日に中部大学民族資料博物館で開催する「2025 中部大学民族資料博物館企画展 特別講座（古典絵画）2025 年度受講生作品展 ― 古典技法の現代作品への応用」の出品作品を収録したものである。
- ・ 「創作作品制作工程」については、記録写真のなかから関連画像を選別した。
- ・ 作品番号は、展示会場の展示の位置と一致するものではない。
- ・ 受講生作品掲載は氏名の50音順とした。

2025中部大学民族資料博物館企画展

「特別講座（古典絵画）2025年度受講生作品展 — 古典技法の現代作品への応用」作品一覧

主催：中部大学民族資料博物館

会期：2026年3月19日（木）～ 5月29日（金） 中部大学民族資料博物館 シルクロード室 / 中部大学附属三浦記念図書館1階エントランス展示

No.	制作者氏名	題 目	寸 法 (cm)	材	形 状
1	石 川 美知子	新緑の教会	45.5 × 65.0	紙本	額装
2		ひかり	38.0 × 45.5	紙本	額装
3	加 藤 あずさ	私の家庭（エゴの木）	45.5 × 53.0	紙本	額装
4		吊り橋紅葉のおでかけ（祖谷のかずら橋）	45.5 × 38.0	紙本	額装
5	小 島 亜弥子	Ray	27.5 × 41.0	紙本	パネル
6		Water light	53.0 × 41.0	紙本	パネル
7	笹 尾 純 子	石山寺・公風園	45.5 × 53.0	紙本	額装
8		竜神の滝	38.0 × 45.5	紙本	額装
9	園 部 五十子	木々のざわめき	45.5 × 53.0	紙本	額装
10		木々のささやき	38.0 × 45.5	紙本	額装
11	田 中 佐保子	夏のお手伝い	32.0 × 41.0	紙本	額装
12		クスノキ1-5-15	45.5 × 53.0	紙本	額装
13	早 川 博 美	春の幻	45.5 × 38.0	紙本	額装
14		古き伝承	45.5 × 65.0	紙本	額装
15	林 均	習作1 中宮物語絵巻・巻三（紙本白描/室町時代）より（彩色アレンジ）	51.0 × 31.5	絹本	額装
16		習作2 妙心寺/歌川国芳・月岡芳年 リスペクト（制作工程アレンジ）	41.0 × 53.0	紙本	額装
17	原 田 由 己	参考（部分）阿弥陀聖衆来迎図（有志八幡講十八箇院/和歌山）（制作工程アレンジ）	45.5 × 53.0	紙本	額装
18		グロリオサ	38.0 × 45.5	紙本	額装
19	牧 節 子	鶉篝火（うかがりび）	32.0 × 23.0	紙本	額装
20		春燈や花の如くに	40.0 × 52.0	紙本	額装

No.	制作者氏名	題 目	寸 法 (cm)	材	形 状
21	松 原 久 代	桜襲 (さくらがさね)	38.0 × 45.5	紙本	額装
22		凜然 (りんぜん)	45.5 × 53.0	紙本	額装
23		深山照映 (しんざんしょうえい)	45.5 × 65.0	紙本	額装
24	水 野 菜 摘	夜に思ふ	32.0 × 41.0	紙本	額装
25		春うらら	45.5 × 65.0	紙本	額装
26	三 田 眞 幸	阿弗利加憧憬	45.5 × 38.0	紙本	額装
27		別れ	45.5 × 53.0	紙本	額装
28	宮 澤 好 子	シクラメン	24.0 × 33.5	紙本	額装
29		月下美人	45.5 × 53.0	紙本	額装
30	安 井 正 志	ジョンの肖像	38.0 × 45.5	紙本	額装
31		模写 (山口薫作品) 花子誕生 (制作工程アレンジ)	50.0 × 60.5	紙本	額装
32	横 井 洋 子	模写 (松村公嗣作品) 初詣 (制作工程アレンジ)	41.0 × 53.0	紙本	額装
33		蓮の一生	38.0 × 45.5	紙本	額装

賛助出品

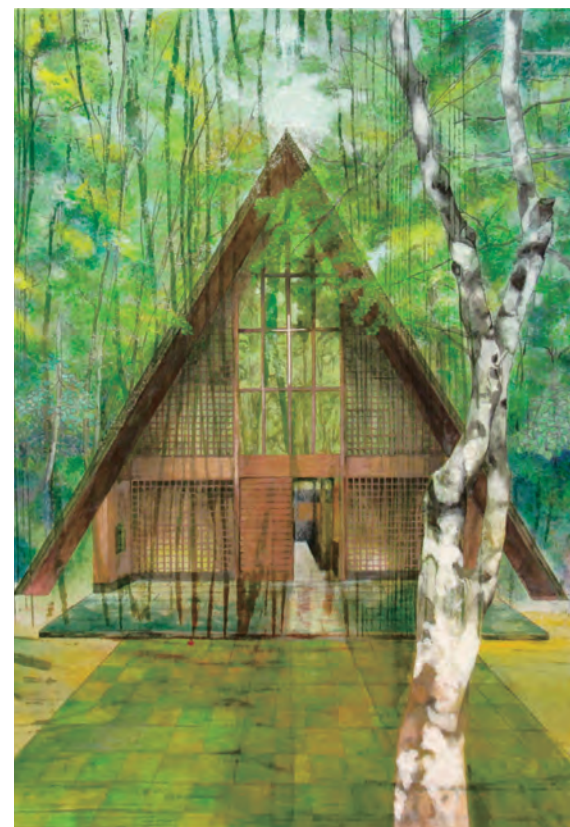
34	下 川 辰 彦	月下美人・浄 (じょう)	100.0 × 100.0	紙本	額装	*
----	---------	--------------	---------------	----	----	---

* 中部大学民族資料博物館蔵
(2021年度寄贈)

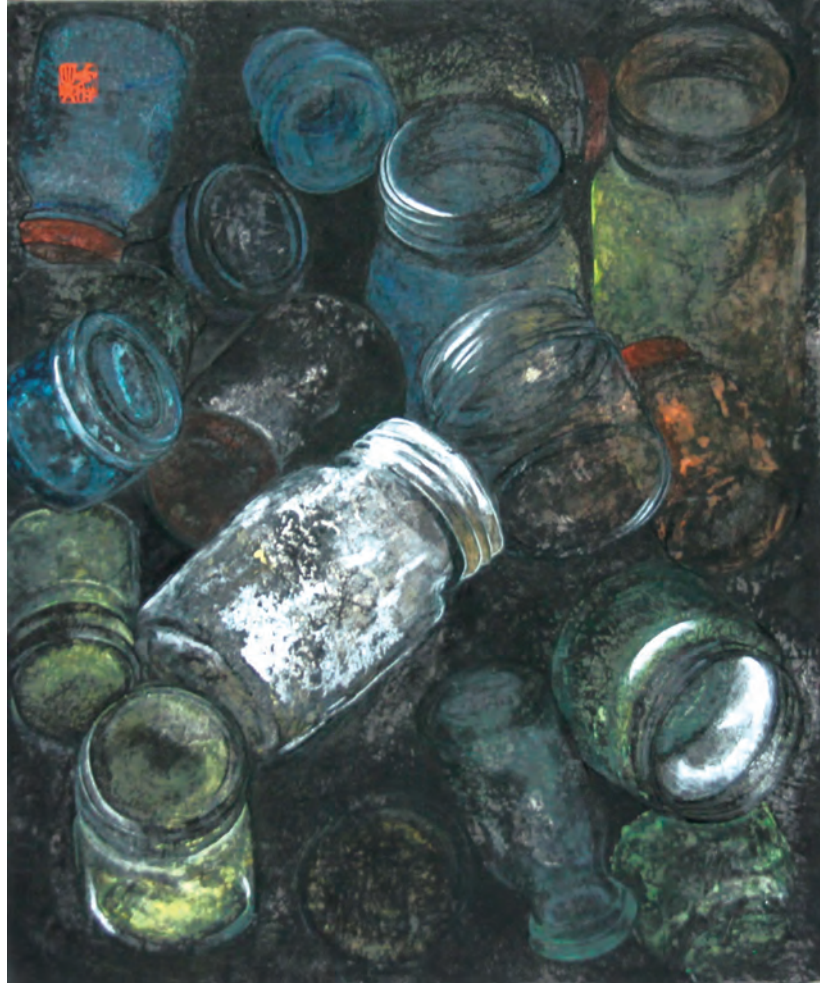
受 講 生 作 品



石川 美知子



《新緑の教会》



《ひかり》



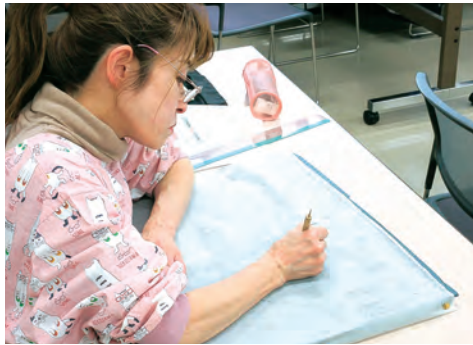
加藤 あずさ



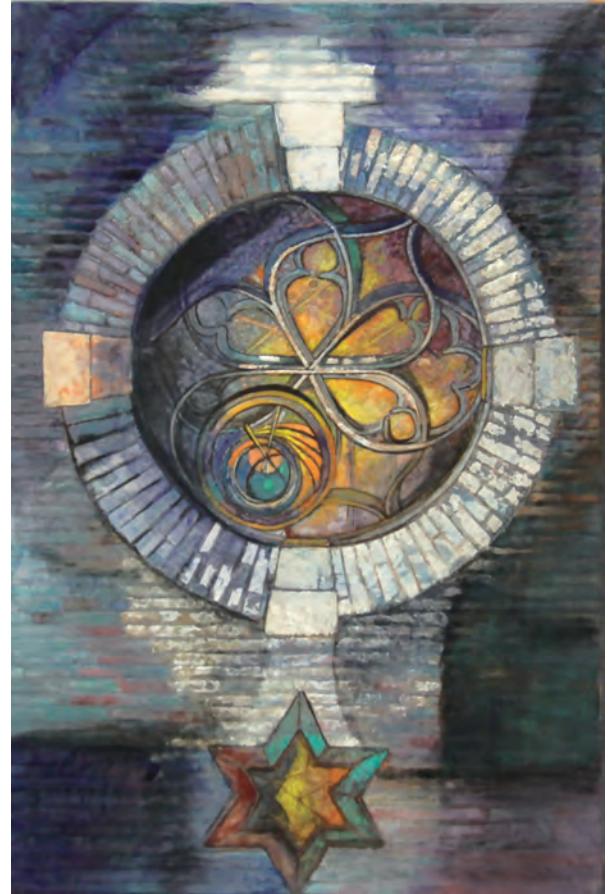
《私の家庭(エゴの木)》



《 吊り橋紅葉のおでかけ (祖谷のかずら橋) 》



小島 亜弥子



《Ray》



《 Water light 》



菅尾純子



《石山寺・公風園》



《龍神の滝》



園部 五十子



《木々のざわめき》



《木々のささやき》



田中佐保子



《夏のお手伝い》



《クスノキ 1-5-15》



早川博美



《春の幻》



《古き伝承》



林 均



《習作1 中宮物語絵巻・巻三 (紙本白描/室町時代) より》
(彩色アレンジ)



《習作2 妙心寺／歌川国芳・月岡芳年 リスペクト》
(制作工程アレンジ)



原 田 由 己



《参考(部分) 阿弥陀聖衆来迎図
(有志八幡講十八箇院／和歌山)》
(制作工程アレンジ)



《グロリオサ》



牧 節 子



うかがりび
《鶺鴒篝火》



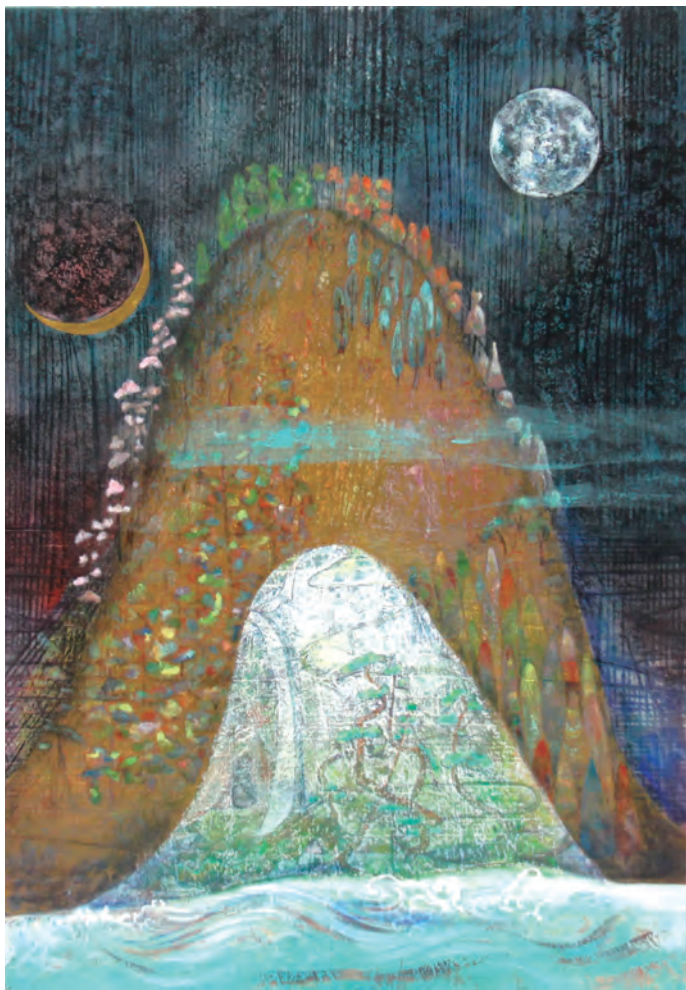
《春燈や花の如くに》



松原久代



さくらがさね
《桜襲》



しんざんしょうえい
《深山照映》



りんぜん
《凜然》



水 野 菜 摘



《夜に思ふ》



《春うらら》



三田真幸



《阿弗利加憧憬》



《別れ》



宮澤好子



《シクラメン》



《月下美人》



安井正志



《ジョンの肖像》



模写《(山口薫作品) 花子誕生》
(制作工程アレンジ)



横井洋子



模写 《(松村公嗣作品) 初詣》
(制作工程アレンジ)



《蓮の一生》

贊助出品作品

《月下美人・浄^{じょう}》部分





《月下美人・浄^{じょう}》

下川辰彦

(日本美術院特待)

中部大学民族資料博物館蔵 (2021 年度寄贈)

中部大学民族資料博物館 2025年度 特別講座（古典絵画）制作工程

本講座は、中部大学春日井キャンパスにて、民族資料博物館企画による特色ある生涯学習プログラムとして、日本画を学習する一般対象の連続講座です。墨、和紙、顔料、染料、金銀箔などの特有な材料を用いる日本の絵画について古画技法を基本に作品制作へ応用するという実技制作を通じて、伝統文化を学ぶ機会を提案しています。

講座期間：（前期）2025年4月30日～2025年7月23日（指定日・全13回）

（後期）2025年9月24日～2026年1月21日（指定日・全13回）

指導講師：下川 辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）

内 容：創作作品制作（前期1点・後期1点）／古典技法の現代作品への応用

前期	日程	主な工程
第1回	4月30日	和紙の切り分け、礬水引き、下図制作
第2回	5月7日	転写
第3回	5月14日	地塗り
第4回	5月21日	裏打ち、パネルへ貼り付け
第5回	5月28日	下図の転写、彩色、胡粉の活用
第6回	6月4日	墨による線描、箔の活用
第7回	6月11日	彩色、箔の活用
第8回	6月18日	彩色、磨きだし
第9回	6月25日	彩色、明暗の調子
第10回	7月2日	彩色、明暗の調子
第11回	7月9日	彩色、色調の調整
第12回	7月16日	彩色、色調の調整
第13回	7月23日	仕上げ

後期	日程	主な工程
第14回	9月24日	和紙の切り分け、礬水引き、下図制作
第15回	10月1日	木目を利用した転写
第16回	10月8日	地塗り
第17回	10月22日	裏打ち、パネルへ貼り付け
第18回	11月5日	下図の転写、木目を活用した下地作り
第19回	11月12日	墨、黒箔を活用した表現
第20回	11月19日	彩色、箔の活用
第21回	11月26日	彩色、色調の調整
第22回	12月3日	彩色、色調の調整
第23回	12月10日	彩色、黒色の調合
第24回	12月17日	彩色、色調の調整
第25回	1月14日	彩色、色調の調整
第26回	1月21日	仕上げ

*前期1名、別で絹絵の模写制作を実施した。

創作作品制作工程（前期）～地塗りを活かした表現ほか

① 本紙（土佐麻紙）の準備



大判の和紙を大きさに合わせて切り分け、しみ防止の髹水を刷毛で引く。

モチーフの構想を練る。

② 下図の準備



下図の紙に胡粉の地塗りをしてからパネルに貼り合わせ写し取る。

配色効果を考えながら地塗り用の水干絵具を複数選び出し、本紙に地塗りをする。

③ 本紙（土佐麻紙）の地塗り



モチーフの配置関係を考えながら色の組み合わせを決め、裏面に色を置いていく。

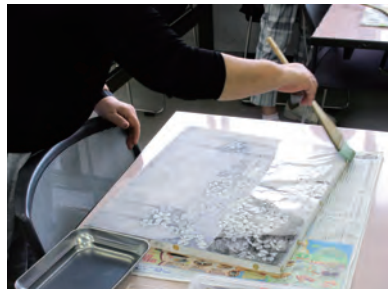


裏面に水を引き、紙をもみ込み、色をなじませる。
作品に応じて選び出した色の配色によって、画面に現れる色みが異なる状態を学ぶ。

④ 裏打ち



礬水を引いて地塗りをした本紙に水を打っておく。
本紙の表面に水を引いてみて、滲みがないことを確認してから薄めに調整したのりを塗り、細川紙を載せるように貼る。
表面から礬水を塗っておく。



裏打ちした本紙が乾いてから水を塗り、パネルにのり付けする。

⑤ 下図を写し、配色を考えながらアクリル絵具で色層をイメージして彩色する。



彩色の上層に箔を置き、下層の色と融合した色を作る。

⑥ 下地の色層の上に、モチーフの形の基礎に白色を置いていく。



白色の濃淡に応じて、下層の色が様々な表情の変化をみせる。画面全体の調子を考えて白色を置いていく。

⑦ 白色の調子を付けてから、モチーフの基調となる色を置いていく。



作品に応じて下地に置く色と調子を考える。



円を意識した筆づかいを学ぶ。



複数の色の組み合わせによる下地を作る。



青みの黒色を調合して作った色みによる闇の表現を学ぶ。



⑧ 色を置いた箇所を磨きだす。



箔を貼った箇所を部分的に磨き、凹凸の効果を出す。



墨色を置いた箇所を磨きだし、モチーフの形を浮かび出させる。



明暗の境を意識しながらモチーフの形をとっていき、画面全体の調子を作っていく。

⑨ 絵具を焼き付け、深みのある黒色を作る。



複数の黄色を用いて
配色効果によって奥行の作り方を学ぶ。

絹絵作品制作工程（前期）～《(模写) 中宮物語絵巻》（制作工程アレンジ）

① 「すてのり」をしたパネル枠に絹を貼り合わせ、礬砂を引く。



② 下図を絹に写し取り、彩色する。



雲のモチーフの下地に金箔を置く。
補助の学生も金箔を扱う体験をさせていただいた。

③ 絹絵の表面と裏面からの処理について学ぶ。



③ 絹絵の表面と裏面からの処理について学ぶ。つづき



上汁黄土を焼き付ける。



金箔を置いた箇所に焼いた黄土を置き、金色の調子を作る。



余分な線描を省き、
全体の調子をみて形を整える。

④ 余白に彩色する表現効果を学ぶ。緑青と墨色の調子を作り、余白に置いてみる。



絹地に筆による線の引き方を学ぶ。

創作作品制作工程（後期）～ 木目を活かした表現ほか

① 本紙（土佐麻紙）の準備



大判の和紙を切り分け、礬水を引く。
乾いてから水を引く。

② 和紙を板にすり合わせ、木目を写す。



杉板に紙を載せ、紙面をこすり合わせ、木目を紙に写す。

③ 裏面から刷毛で複数の色を使って地塗りをする。



乾かした後、水を霧吹き程度にうすくかけ、薄く溶いておいたアクリル絵具を塗る。
木目の模様の効果をみながら配色を考える。

④ 本紙の裏面に細川紙を裏打ちする。



パネルに合わせて裏打ち紙を用意する。



本紙の裏に水を塗る。

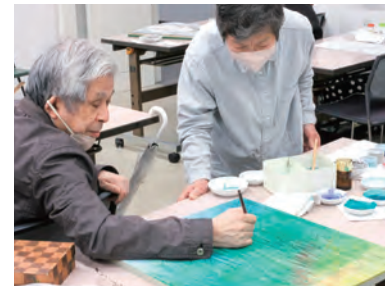
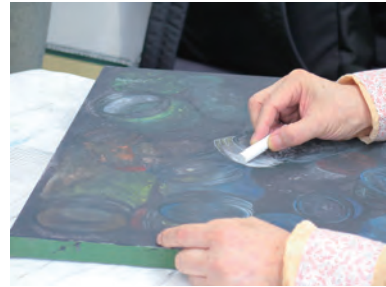
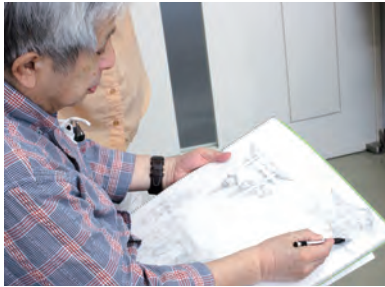


本紙の裏面に糊を引き、裏打ち紙に合わせて刷毛でのばす。



紙が濡れているうちにパネルに貼り合わせる。

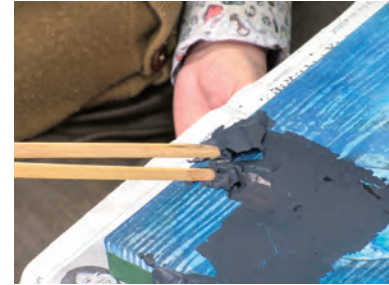
⑤ 木目の効果と地塗の効果を考えながら、下図を写しとる。



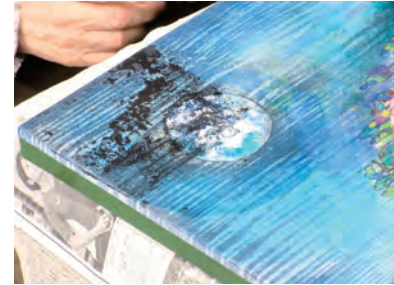
⑥ 黒の効果



墨を焼き付け、深みのある色を作る。



黒箔を用いて、絵具と異なる触感を作る。



墨色の濃淡の調子をみながら構図を考える。



金箔に深みを出すために配色の順を学ぶ。



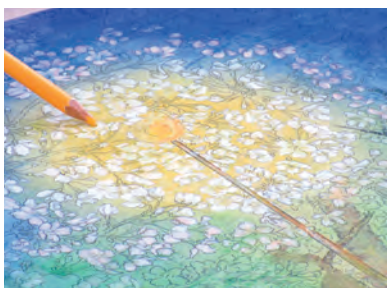
⑦ 画面の色調の作り方を考える。



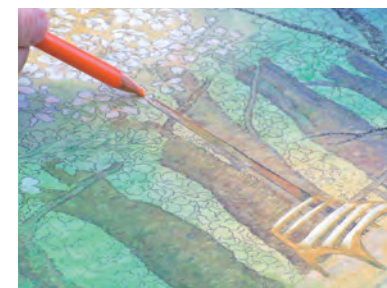
色鉛筆を用いて、画面全体で色の調子を考える。



暗色の箇所との調子を、白色を用いて作っていく。



淡い調子には色鉛筆を用いて微妙な色合いを出す。



⑧ 淡い色層を重ねる制作



モチーフに合わせて地塗りの配色を淡く彩色する。



2種類の絵具から、4種類の黒色を調合する。

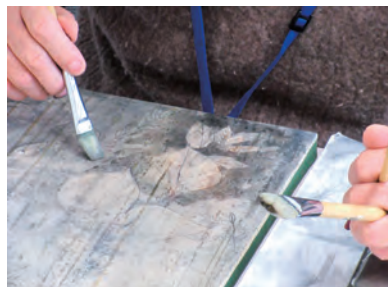


3種類の色みを、変化をつけながらおいていく。その上層に金箔を置く。



淡い色で黒の調子を丁寧に重ねる。

⑨ 仕上げ



全体の調子をみながら、モチーフの形を丁寧にとっていく。



色調の強弱、諧調を意識しながら、光や風など形の無いものを描き手の感覚によって作り上げていく。

2025年度 中部大学民族資料博物館 特別講座(古典絵画) 受講生 アンケート集計報告

アンケート回収 16名 / 16名 回収率 100% (以下ゴシック体が回答内容)

1 講座全体について感想をおきかせください。

① 大変関心を深めた ② 普通 ③ あまり関心が持てなかった ① 15名 ② 1名 ③ 0名

2 講座内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。

- ・ 絵を描くだけでなく、裏打ちや板絵などなじみのない作業も教えていただくことができた。
- ・ 裏打ちのやり方にいろいろな方法があることがわかったこと。
- ・ 絵具を使った色作りや描き方、土佐麻紙をもんだり、板を利用して木目を生かした作品作りなどいろいろな表現方法を学び興味深かったです。
- ・ 未だに塗った時点の色と乾いた時（仕上り）の色の想像が出来ない点。
- ・ 完成状態を想像できない点。
- ・ 絵具の使い方。
- ・ 今まで風景を書いたことがなかったので挑戦しました。全体のバランス、中心となるポイント、光の表現など知らなかったことが経験できました。
- ・ “日本画”を制作できるということに関心を持ちました。また現代の絵具を日本画に活用するという点でどのように制作するか興味深かったです。
- ・ もみ紙や木片を使用したマチエールの作り方を詳しく指導していただきとても勉強になりました。ありがたかったです。
- ・ 日本画の基礎的な道具と絵具技術の多様さ。
- ・ もみ込み、杉板をこすり合わせて、模様作りの技術は他では教えていただけない内容ではないかと思います。
- ・ 裏打ちの仕方を教えてもらってよかった。
- ・ もみ紙や木目を使ったこと。
- ・ 作画の手順や絵具の塗り方が大変参考になった。
- ・ 胡粉の使い方。
- ・ 高価な絵具や金箔、銀箔を使用させていただき、またその使い方を教えていただき大変勉強になりました。

3 講師の指導について、いかがでしたか。

① 満足した ② 普通 ③ いまひとつ ① 16名 ② 0名 ③ 0名

4 講師のどのような指導が良いと思われましたか。

- ・ 個々の作品にとってどのような表現が適しているかを様々な技法から教えてくださり、参考になります。

- ・どのように描いたら良いのか迷う事が多かったですが、先生の一言で絵がガラッと変化しました。
- ・一人ひとりに丁寧に指導して下さること。
- ・私自身の性格・描き方などをみて細かい指導をいただけたことがよかった。
- ・1人1人にアドバイスを丁寧にしていただけました。
- ・各生徒は本当に個々に様々な絵を描いています。先生は各々に応じて丁寧に指導して下さり、その指導力にいつも感動しています。
- ・テーマ設定と技術力の高さ。
- ・個人の力量に応じたきめこまかな指導。
- ・技術をおしみなく教えて下さる点。
- ・実際に手とり（足とり）で丁寧に使い方を教えてもらえました。
- ・ダメ出しをして下さるとともに、その修正の方法も教えて下さる点。
- ・非常に丁寧に説明していただいたこと。
- ・基本的な日本画の描き方を指導していただきよく理解できました。

5 事務的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| ・連絡をこまめにしてもらい困ったことは特にありませんでした。 | ・特にありません。 |
| ・適切に対応していただきありがとうございます。 | ・いつも親切にいただき大変助かりました。 |
| ・困ったことはありませんでした。配慮に感謝しています。 | ・特にないです。 |
| ・他の授業（エクステンションカレッジ）との連携があると良いかも。 | ・特にありません。 |
| ・丁寧に説明してもらった。 | ・ありません。 |
| ・大変よく説明していただきありがとうございました。 | ・親切に連絡などいただきありがとうございます。 |

6 今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

- ① 受講する ② わからない ③ 受講しない ① 15名 ② 1名 ③ 0名

7 今後、希望される講座内容や、また改善を望まれる点など当館へのご意見・ご要望をお聞かせください。

- ・作品・道具等毎回の持ち運びが大変なため、預かっていただけると助かります。
- ・できれば続けていただきたいと思います。
- ・新しいテーマが決まっているので、開講されることを楽しみにしています。
- ・いつもありがとうございます。

～ご協力ありがとうございました。

中部大学民族資料博物館 2025年度特別講座

「古典絵画」 受講生作品展

— 古典技法の現代作品への応用

2026.3.19[木]—5.29[金]

中部大学民族資料博物館 シルクロード室他

※5/27(水)10:00より会場で指導講師による講評会を行います 指導講師:下川辰彦氏(日本美術院特待)



下川辰彦
画



2025年度特別講座「古典絵画」受講生作品展

2026年3月19日(木)～5月29日(金)

民族資料博物館 シルクロード室他 〈入場無料〉

＊5月27日(水)10:00より指導講師による作品講評会

指導講師: 下川 辰彦氏 (日本美術院特待)

中部大学民族資料博物館の特別講座「古典絵画」は、
日本画の実技制作を通じて古典絵画の材料や伝統技法を
学びながら、現代作品の制作をすすめる連続講座です。

大学博物館より地域の皆様へ生涯学習の場を
提案する試みを継続して行っています。

2025年度の課題テーマは、古典絵画の技法を
現代の創作作品への応用として、

伝統的な岩絵具や金銀箔などを用いて
表現の幅を広げていく工夫を学びました。

1年間にわたる制作の成果をご報告いたします。



JR神領駅北口[中部大学バスの切ば]より直通で約10分

中部大学民族資料博物館企画
特別講座「古典絵画」2025年度受講生作品展
－ 古典技法の現代作品への応用

2026年3月31日印刷
2026年3月31日発行

編集・発行 中部大学民族資料博物館
(中部大学 学事部学事課/民族資料博物館担当)
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
T E L 0568-51-9193 (直通)
F A X 0568-51-9194
印 刷 不二印刷工業株式会社

表紙デザイン・展示リーフレットデザイン：山崎 美穂（中部大学 入試・広報部制作課）

※デザイン参考：英 一蝶《人物雑画卷》江戸時代・17-18世紀 東京国立博物館蔵

<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/E0090825>

(東京国立博物館 研究機構アーカイブス)

* 作品を一部抜粋加工しています。本展への出品作品ではありません。

